

住民の安全・健康守り、福祉の充実を最優先に

—総務文教常任委員会報告—

10月22・23日両日で総務文教常任委員会が開かれ、嶋田たかし、ささい喜世子市議が審議にあたりました。この委員会では、主に平成25年度一般会計補正予算や、平成24年度一般会計決算、財産区特別会計決算などが審議されました。

その主な内容をお知らせします。

平成25年度一般会計補正予算

☆高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種が予算化

これまでも日本共産党議員団は「近隣他市で実施されているこの助成制度を羽曳野でも実施すべき。」と求めてきました。肺炎で死亡する高齢者が増える中で、この予防接種は、1回で5年間以上の予防効果が期待されています。今回、75歳以上の後期高齢者に、1回接種3000円の助成がされる578万4千円が予算化されました。

☆埴生小学校の移転跡地は、住民参加で西部スポーツ公園整備を

埴生小学校の解体工事設計委託料802万2千円が計上されました。跡地は西部スポーツ公園として整備され、市長は「総合市民グラウンドにしたい」との答弁です。しかし、整備の案はこれから検討されるので、施設建設は市民合意できるよう、市民の声や地元の意見をしっかり聞いて進めるよう要望しました。

◎平成25年度一般会計補正予算は、市独自で高齢者肺炎球菌予防接種助成が予算化されたことや、保育士確保のため、民間園の保育士処遇改善をするための国の臨時交付金などが計上されていることから、この予算には賛成し、認定としました。

平成25年度財産区特別会計決算 損害賠償金の清算を急げ!

財産区である芋地池を埋め立てた千坪の月一万円賃貸が不当と、住民が勝訴した損害賠償金は、いまだに清算がされず、宙に浮いたままになっています。市は地元と早急に話し合いをして清算すべきと、この決算に反対し、不認定としました。

平成24年度一般会計決算

◎平成24年度の実質収支は、7798万5千円の黒字決算

市税が落ち込む中、黒字決算になったことは評価できますが、平成24年度予算を編成する時に、くらしや営業がさらに大変になっている中、住民のくらしと福祉を守るため、日本共産党議員団は「羽曳野市一般会計予算等組み替えを求める提言」もしてきました。しかし、その要望したことが組み入れられた決算とはなっていないので、決算には反対し、不認定としました。

1点目は、命を守り、健康・安全を守る決算ではないこと。

職員数は、昨年度よりさらに10人少なくなり、679人と府下最低です。東日本大震災の教訓から見てもマンパワーが必要です。また、自然エネルギーへの転換のための施策が必要ですが、それに取り組む姿勢が見られません。

2点目は、貧困と格差の広がりを、是正する取り組みが消極的であること。

働きたくても働くところがない中、雇用や労働相談の対応が十分ではありません。また、安定的な雇用形態をつくるため、非正規職員には時給千円条例をつくるなど市が率先して取り組むべきですがそうはなっていません。また、教職員の勤務実態も過労死ラインの長時間労働になっているのではないかと、問いいただきました。

3点目は、くらしを支える決算ではないこと。

国民健康保険料の引き下げや、子ども医療費助成の年齢拡充は切実な市民の願いですが、市は「貯め込み金があっても保険料の引き下げに充てられない、子ども医療費助成は他市に比べて遅れているが、他市より先進を言っている制度もある」と市民の願い実現に背をそむけています。

4点目は、市長の政治姿勢が市民のほうを向いていないこと。

古市複合館や、エコプラザ、管理棟などが建設されましたが、市民の願いに沿ったものにはなっていません。独断専行で進めている政治姿勢こそ、改めるべきです。